

第5回蒲郡市産業振興会議 会議録

開催日時	令和5年5月22日（月）午前10時00分～12時00分	
開催場所	蒲郡市役所本館3階 303会議室	
出席者	【蒲郡市産業振興会議委員】（敬称略）	
	蒲郡商工会議所	会頭 小澤素生 （株式会社ニデック 代表取締役社長）
	蒲郡市観光協会	会長 杉山和弘 （株式会社明山荘 代表取締役社長）
	蒲郡市農業協同組合	代表理事組合長 鈴木茂正 （蒲郡市農業協同組合 代表理事組合長）
	蒲郡市漁業振興協議会	会長 小林俊雄 （三谷漁業協同組合 代表理事組合長）
	蒲郡鉄工会	会長 近藤昌泰 （株式会社近藤鐵工所 代表取締役会長）
	蒲郡金融協会	代表 河合博 （蒲郡信用金庫 専務理事）
	小池商事株式会社	代表取締役社長 小池高弘
	株式会社金トビ志賀	代表取締役 志賀重介
	稲葉製網株式会社	取締役専務 稲葉千穂子
	株式会社ミスコンシャス	代表取締役社長 小山絵実
	愛知大学	地域政策学部教授 戸田敏行
	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科 機械工学系教授 高山弘太郎
	愛知工科大学	工学部機械システム 工学科教授 渡部吉規
	蒲郡市	産業振興部部長 池田高啓
	【事務局】	
	蒲郡市	産業振興部産業推進監兼農林水産課長 永島勝彦
	蒲郡市	産業振興部次長（観光まちづくり担当）兼観光まちづくり課長 小田芳弘
	蒲郡市	産業振興部産業政策課長 鈴木直美
	蒲郡市	産業振興部産業政策課産業立地推進室長 坂口敏行
蒲郡市	産業振興部産業政策課長補佐 黒田俊介	
（公社）東三河地域研究センター （ビジョン策定業務受託者）	常務理事・調査研究室長 高橋大輔	
他6名		

	第4回蒲郡市産業振興会議録の保存
議題	(1) 蒲郡市産業振興ビジョン（案）について (2) 令和5年度産業振興施策について
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・蒲郡市産業振興会議委員名簿 ・蒲郡市産業振興ビジョン（案） ・令和5年度産業振興施策一覧 ・蒲郡市産業振興会議について ・座席表 ・意見提出用紙
会議内容	<p>1. 開会</p> <p>○会議の注意事項</p> <p>○配布資料説明</p> <p>○委員及び事務局の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知工科大学、工学部機械工学システム工学科教授の渡部委員は、加藤委員の後任として今年度よりご参画いただく。 ・今年度から参加させていただき、どれだけお役に立てるかわからないが、地域貢献というのは大学の使命の一つだと心得ている。また、蒲郡市、事業者、産業界には学生の就職先としてお世話になっており、感謝申し上げます。 ・私の専門領域はプラント設計で、現在、やむをえず廃棄される蒲郡みかんを堆肥化する際の熱を取り出して、還元できないかということを考えている。蒲郡みかんのSDGsブランド強化という様なことに貢献したい。 ・永島産業振興部産業推進監兼農林水産課長は、廣中産業振興部次長の後任として今年度から参画する。永島産業推進監より皆様にご挨拶申し上げます。 ・産業振興部は初めてとなるが、土木技師としての知識や経験を活かして、産業振興に貢献してまいりたい。 <p>2. 第4回蒲郡市産業振興会議録の保存</p> <p>○戸田会長、高山副会長による署名</p> <p>3. 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は二つ議題があり、第1点が蒲郡市産業振興ビジョン（案）について、もう1点は令和5年度産業振興施策について、ということで、これはビジョンに関連して新年度が始まっているが、今年度に何があるかという事業の内容である。この2点について、ご意見をいただきたい。 <p>(1) 蒲郡市産業振興ビジョン（案）について</p> <p>○資料「蒲郡市産業振興ビジョン（案）」、資料「蒲郡市産業振興会議について」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただいま説明のあった、「蒲郡産業振興ビジョン」と「産業振興の推進体制」の2点に

ついて、ご意見をいただきたい。

- すでにパブリックコメントが終わり、ビジョンの完成版という位置づけになるかと思うが、いい形でまとめていただいた。この内容を議論するよりも、後は推進体制のところ、結果を出すというところに注力すべきである。この会議の後に、商工会議所でも定期会議があり、プロジェクト1について案内する。商工会議所においてこのビジョン（案）を見ながら実際の施策を一緒になってやっていきたい。
- 資料はある意味わかりづらいところもあるが、流れとしてはかなりまとまってきている。一番大事なことは、実際に実践していくということである。早く実践に向けた勉強会など、お話をさせていただくことも期待している。
- 1点付け加えていただきたい部分が、25ページのSWOT分析について、強みのところで蒲郡みかんのブランド力も強みの一つになる。近年、特に色々な企業からの蒲郡みかんを使いたいという引き合いも多い。また、観光面でも蒲郡みかんをPRしてくれていることから、蒲郡みかんのブランド力というところを付け加えてほしい。
- このビジョンにはそれぞれの市の施策に紐付けられていると説明があったが、我々も独自で施策、計画等を持っているため、それを踏まえた形での関連を配慮していただけると良いのかなと思う。
- これから実践というかプロジェクトの方の話が始まると思うが、新たなことを始めるというとなかなか大変なところがあり、我々の人手の問題もあるため、既存の取り組みの中で、発展的にプロジェクトが増えるといい。
→みかんのブランド力をSWOTの強みに加える。
- 漁業協同組合の関係者としては、水産資源が豊富ならばある程度計画をうたってやれるが、非常に自然の影響が大きく、なかなか数値化をするということは難しい。現状を維持することに一生懸命で、特に漁業者を増やしても、ある程度この海に対してどれだけの許可を下ろすかは決まっているため、漁業者を増やす要素がない。
- 特に潮干狩りが最盛期だが、お客様が満足するだけの漁獲がないということで非常に悩んでいる。今年の場合は、アサリやその他貝類の相場が上がっているため、ある程度満足してもらえるが、非常に悩ましい問題である。資源を回復するためにどういう施策をするかということは、県や国でも考えており、今後それが上向いてくれば、もう少しよくなる要素はあるが、なかなか数値化ができないのが水産業の現状である。
→国、県の対応というも、産業振興に欠かせない一つの役割になる。
- 蒲郡鉄工会所属の企業は、今年4社が廃業し、会員数としては60社にまで減少している自動車業界ではいわゆるガソリン車からEV車に変わっていくという大きな流れの中で、内燃機関、あるいはミッション関係の切削部品に関わっている事業者はかなり仕事の取り合いになる。厳しい環境がもう間近にあり、Tier2レベルでは事業再構築が水面下では始まっている。このような問題意識の中で、産業振興会議へ参加をさせていただいていた。
- 既存企業が廃業する理由は、1点目は後継者がいないこと、2点目は後継者はいるが事業の先が見通せないことである。蒲郡鉄工会に所属する事業所は歴史が長く、市街地内

でやっている事業所も多い。蒲郡市都市計画マスタープランの中で、用途地域について考えているが、もう少し気持ちよく仕事ができる様な工業用地の確保が必要である。

- ・廃業を何とかいとめるために、ここは新しい仕事を見つけていく施策も必要である。企業内起業と言っているが具体的な施策が必要で、これをどの様に産業振興会議の中で具体的な方策の中で見つけていくのか。本年度予算の中身が報告されるかと思うが、企業の自助努力が一番重要であるが、行政がフォローしてほしい。

→厳しい状況もご紹介いただいたが、これからの振興会議の、議題、方針にしていくべきだと思う。

- ・このビジョンは非常によくまとまっている。今後の課題とするとやはりこのビジョンを踏まえた推進であり、各々がいかに連携して、相乗効果を生み、蒲郡市が成長しよくなるかが重要である。

- ・2 ページのビジョンの位置づけであるが、経済界、蒲郡市、国・県ということで書いてあるが、蒲郡市は繊維のまち、というイメージが強く、この経済界の中に繊維関係の組合等の文言がないので加えてはどうか。

- ・40 ページの地図は、位置関係がもう少しはっきりする様に、例えば蒲郡市役所なり J R 蒲郡駅といったランドマークも示した方がわかりやすい。

- ・今回、パブリックコメントで意見がなかったこと、アンケートの回答率が低いというようなこともあり、市民や事業者も、自分が属していることについては興味があるが、全体のことや他の産業のことに対しては意識が薄いと感じた。

- ・これを推進していくためには 1 人でも多くの方に、まずはこのビジョンを見ていただいて、認知していただいてそして一緒に推進していただくことが必要だと思う。このビジョンを作るための委員会の委員だと思っていたが、今回の資料を見て今後は推進委員の様な役割も果たしていくのかなと感じた。

- ・各委員が関わる取り組みについても発表し共有していくということなので、自分事としてどんどん広まっていくことを期待したい。今後、どの様に行政や異業種の方と関わって推進できるかを模索していきたい。

→蒲郡市産業振興会議の委員は、推進役割も期待されているので、ご協力をお願いしたい。パブリックコメントについて少し補足すると、パブリックコメントというのは公共的な政策、計画策定時に制度上組み込まれているが非常に利用率が低い。しかし、これは大変な影響力があり、国の計画でもそうだが、この制度に基づいて提案するものは、無視されない。蒲郡方式のパブリックコメントのような、活きたパブリックコメントができると、これは非常に計画として有効であり、これからの会議でご議論いただきたい。

- ・このビジョンに関しては皆さん同様にこれで進めていただいてよい。網羅性が高く、色々な産業の方が見ても自分事としてとらえられる部分がいくつかは含まれている。そういう様な状況はすごくいい。

- ・私はベンチャー企業側の人間だが、愛知県はものづくりなど、賃金も安定して高く、ベンチャー的なものが生まれにくい地域柄でもあった。最近では STATION A i な

どもできて、愛知県も頑張るぞという様な心意気も見えるため、そういった時流に乗りつつ、もちろん事業承継をサポートし、廃業されることをなるべく阻止するというところも大事ではあるが、今後伸びていく様なところにしっかり活力をつけていける様な、ベンチャーやスタートアップ推進の施策もビジョンの施策体系の中にも含まれているので、自分自身もどういった協力ができるかなというところを考えている。

→是非、起業やベンチャー企業に使っていただける計画になることを望む。

- ・俯瞰した視点で申し上げると、SWOT分析で課題が浮かび上がり、基本戦略として三つ、柔軟性と挑戦と連携でいきましょうとなった。34 ページには具体的な取組が、それぞれ掲げられている。それを見たときに、柔軟性を持って対応しようとか、変化に対応しましょう、それから新しいことに挑戦しましょう、というのは例えば国でも県でも様々な施策があり、そういう中でも取り組みながら、市でもやりましょうということだと思ふ。連携、コラボレーションのところは、蒲郡の特徴が出やすい。
- ・蒲郡の各産業が横串となり、他の産業で上手くいった施策をこちらの方に持ってくるとか、強いところの上手いやり方を弱いところへ持ってくるとか、そういう様な連携が最も蒲郡らしさが出て、この会議の価値が高まると感じる。連携のところのボリュームが今この面積で見ると、7割～8割ぐらいが柔軟性や挑戦で、残りの2割ぐらいが連携で少し数が少ないため、ここを広がる取組を今後やらなければいけない。
- ・色々施策も出ているが、推進体制をどうするかということが一番大切である。誰がリーダーシップをとって推進していくのかが、まだ見えてない。具体的に進める中では、一つ一つ具体的に見ないと、なかなか目標にいかない。
- ・市長も連携の強化と言っているが、業種を超えた連携も大切だが、やはり地域を越えた連携が非常に大切である。蒲郡の施策なのでどうしても蒲郡という市のボーダーを作ってしまうが、例えば、蒲郡に立地を誘致したいが、土地がない場合、他の地域に、来た企業と蒲郡の企業がどうやって結ぶのか。特に蒲郡は土地がないため、そういった連携をどうするのかということも考えなければいけない。
- ・2032年、10年後の地域を見据えてとあったが、企業は10年後というよりも、長くても3年ぐらいの計画をやっていく。例えばダイバーシティのことをやってもすぐ収益に結びつかないのではないかという話になりかねないと思う。10年後の先を見据えて、今こういうことをやっていきたいと思いますという目標にしておかないと難しい。
- ・市や産業経済団体で実施する経済施策になると、個々の企業が努力する目標とは違った、全体に関わることをやらなければいけないので、今回調査をして足りなかったことは何かという問題よりも、10年後の蒲郡にとって、それぞれの産業がどうあるべきかというところから施策を創り上げていくところも必要だと思ふ。
- ・産業振興について、住んでいいな、訪ねていい思いしたな、というまち自体の設えというのをちゃんと作っていかないといけない。人口減少傾向のなか、地域経済循環の話で言ったら、蒲郡内の生産は減っていく。やはり住んでいいまちをみんなで作って、まちづくりというのは時間がかかるが、観光や特に食に関わる漁業、農業が大切である。目の前の課題をどうするかと、先を見据えた課題を分けて考える必要がある。

→計画を推進していく中で、早期に実施していく部分と、長期時間をかけて創り上げていくところの分けも必要である。そのあたりのご意見をいただき、事務局で整理していくことが必要である。

- ビジョンは非常にしっかりとまとめられているが非常に情報量が多い。これを一般市民として読む気が起こるかという、なかなか難しい。中身ではなく、量が多いことによって一般の方が自分とは関係ないから読む気が起こらないというようなことが往々に起こり得ると思う。町内会長をやった経験上、回覧版が有効であった。年配者の中にはネット環境を利用しない方もいる。パブリックコメントにおける具体的な方法論であるが、多くの意見を求める場合に、回覧版は有効で、必ず一つコメントしてくださいという様に回覧版を回すと、多く返ってくる。これも一つの方法である。また、大学と連携して大学生から意見を聞く方法もある。
- チャレンジにはリスクが伴い、躊躇される場合が多いが、大学は仮にそれが成功しなくても、致命的なことになるとは限らない。基本的なデータを入手するなど、そういうことに利用することができる場でもあるため、新しいことがあった場合に大学へ提案をしていただくと、大学の存在意義も高まる。
- ビジュアル的にも綺麗で、見やすい感じになっている。地域課題のところでも市民、特に女性の話しか言及はなかったが、ある程度20代あたりの方々の転出が多いというところも考えると、例えば中学校とか小学校の教材に使える様な1、2枚ものがあるといい。行政が主導してできることから始めるという意味でも教育委員会を通じて、地域の学びの授業教材として利用することで、もしかすると彼女、彼らからこんなまちだったら暮らし続けられるのにとか、こういうかっこいいベンチャーがあるなら、ここで働いてもいいなとか、そういうことが出てくると面白い。
- 異分野融合で、鉄鋼で出てきた熱やCO₂を、蒲郡みかんを作るために使うなど、しかもそれがデジタル化されてスマホでコントロールできるのであればやってみたいとか、提案して面白いと思ったら、私だったらこんなことをするなど、その横展開が広がってもらえるような中身だと、まず行政が着手できる。
- 外国人の住みやすさという点も行政からすぐできる話である。全部英語で対応できるなど、その様なことだけでも隣市から引っ越してきてくれそうな気がする。
- 大学について、先端農業を実施される方々を育成するという人材育成プログラムを15年ほどやっているが、蒲郡市とコラボレーションして蒲郡市から受講いただくということを具体的に始めたり、カーボンニュートラルへの取組ということで蒲郡市を介して、研究をすることも始まりつつあり、今後、ご報告したい。
→今後デジタル化していくにあたって、今のアイデアをぜひ取り込んで、希望が持てる様なものになっていくといい。
- ここ数年新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の皆様や地域経済へ大きな影響があった。こうした中、この会議を進めることができ、ウィズコロナ、アフターコロナの意識をしながらも、これからの産業振興を考えて振興ビジョンを創り上げることできたと感じている。今まで行政は、経験などで施策を打つことも多かったが、各産業界

が一堂に集まる会議が設置され、各産業界や大学の先生方のご意見を、この産業振興会議において官民一体となって産業振興施策に取り組むことができる指針ができたと感じている。今後、それぞれの施策について、効果検証、進行を進めながら、引き続きのご協力をお願いしたい。

- ・市制 50 周年の時に、観光交流立市を宣言して観光のまちというのを進めてきた。来年度、蒲郡市が市制 70 周年の記念の年になる。その直前に産業振興ビジョンができるという、その仕事に関われたことに大変嬉しく思う。蒲郡というのは観光のまち、海のまち、温泉のまち、繊維のまち、それからみかんのまち、音楽のまち、深海魚のまち、色々な方々がいる。そういったことを改めて市制 70 周年のタイミングで、新たな施策とともに、市民、それから市内外に発信していくチャンスだと考えている。
- ・今回ビジョンができて、概要版を作成するため、児童・生徒、学生にも手に取っていただいて、改めて蒲郡市の産業を学ぶ機会をつくりたい。そして蒲郡はこんなに魅力ある企業がある、魅力ある技術があるということを知ってもらいたい。
- ・この後、今年度の施策について説明させていただくが、産業振興部としては、短期的な施策、それから長期的な施策についても、発信し取り組んでいく。物事をやる時にわくわくする、楽しみがあるような施策を出していくのが産業振興部だと思っている。
- ・商工会議所で、計画をご活用いただくような具体的な連動が極めて重要だと思う。情報発信と参画ということについては、関連するご意見を活かしていただきたいと思う。

(2) 令和 5 年度産業振興施策について

○資料「令和 5 年度産業振興施策について」の説明

- ・こういうものがあるといいと議論されたものは大体反映されているようである。特に農林水産課のデジタル化の取組、DXの取組などである。そこで何か改善されたのか、されなかったのか、よさそうだったらみんな導入すべき、補助がなくても入れる価値があるなど、そういうところを数値で出せると、DXに関しても進みやすい。
- ・ご説明いただいたものは、既に予算がついて執行が決まっているということで、この施策を作られた背景はどういうところから来ているのかというのがわかるといい。これが各産業界から求められていることなのかどうかということが、一般市民の方にもわかるといい。
- ・販路拡大や農業関係、環境も含めてだが、おそらく今産業界の皆様も精一杯やれることをやっていると思うが、既存の方法で行っても大きな指し手は恐らくなかなか難しいということで、視点を変えた方法をしないといけない。例えば、今までなかったブランドを付加するなども必要である。
- ・個別の事業はそれぞれストーリーがあるが、それらを複合させていたり、連鎖反応を起こしたり、新規事業を提案したりというのが、ここの意義になるため、個別事業の内容を簡潔にわかるようにしていただくことが必要。それはこの計画のみならず、分野横断で重合していくときには、必要なことであると思う。それは、これからの対応になるが、今日の各委員のご意見を反映させながら、進めていただきたい。

- ・観光まちづくり課が蒲郡にあるということ自体何故あるかということ、やはり観光というのは第一次産業～第三次産業を含めて幅広い産業との連携ができる。そして最後はまちづくりまで関係している。それと同時に観光は人を呼んでマーケットを創ることができる。愛知県はものづくり中心だが、観光は人を呼んでマーケットを創ることができるという意味でどの町もやりたい。蒲郡は、観光に関しては経営資源や歴史もあり、自然の海もあり、観光は大切だという理論武装をまずしておいて欲しい。
- ・これからの蒲郡のことも少し今からやっていく必要がある。例えば、フェリー乗り場もまだ港湾計画に残っているが、そこからドローンで伊勢へ飛ばす。トヨタ自動車に蒲郡から田原工場へ行くドローンを飛ばしてもらって実験しながら、それができるようになったら蒲郡からドローンで伊勢へ行けるような、そういったものを今から少し研究していく必要がある。
- ・観光は人づくりであり、あの人に会いたい、とリピーターになることもあるため、そのような人づくりについても少し、予算を確保するとよい。大きな計画の前に、例えば西浦の旅館に泊ったら、知柄漁港で朝食をとれるなど、本当に簡単な小さなことから始めていく、そういったプログラムをいくつか作りながら実験的にやりながら大きなところに持っていく方法もあると思う。そういう素地はたくさんあり、少し奇抜なアイデアから先にやってもいいと思う。
- ・観光に関して色々な施策を既に取り組まれているが、これからは連携の部分が重要である。デジタル化の普及や人材の確保・育成というところがあるが、観光のコンテンツを、一次産業二次産業と連携させてそれをITの技術でアピールするなど、新しい取組をするところに、市外へ出た若い人たちが戻ってくるとか、若い人たちがそういう取組みがあるなら関わりたいと、市内企業に就職する流れあるとよい。
- ・色々なアイデアが出てきている中で、色々なことやっているけれど、自社ならもう少しSNSを頑張るなど、やり様があると思う。インフルエンサーの方にやってもらうと、速く伝わってくるというのがあるので、SNSに長けた人と組んで、行政としてインスタグラムとかとの関わり方はもう少し強化した方がいい。
- ・サテライトオフィスは、自分の感覚でいうとワーケーションなど今話題にはなっているが実際はあるのかなというのが疑問で、サテライトオフィスという様に考えると、沖縄で大きい補助金が出て、給料が安くて雇えるというメリットがあって、そこにサテライトオフィスを置くという様な、企業側にメリットがあるから置くと思うが、蒲郡にワーケーションでサテライトオフィスを置いて、どんな人が来たいのか。
- ・弊社のサテライトオフィスで働いている人は、大体自宅がもともと北海道とか神戸とかにあって、その近くのサテライトオフィスを借りている。蒲郡にサテライトオフィスを置くというメリットがどれぐらい提示できるのか、やりたいのと需要というのは違うのかなという様に思った。
- ・施策をやっていく上で、やってよかった、成功だったねというのはもちろん、拍手で広げていけばいいが、もし駄目だったとか、これ違うなとみんな気づき始めた時には、ここまでやったから無駄だなと、ズルズル続けていくのではなく、効果検証をして切ると

ころは切るという形でやって欲しいなと思う。

→サテライトオフィスの需要については、地域課題をビジネスの力で解決しようとしているスタートアップ企業が多く、引き合いがある。全国的にはなかなか難しい部分の中で、愛知県は企業の県であり、なおかつその中で大都市圏の名古屋から少し離れたところで、余暇を楽しみながらという点は、関心がある企業は結構ある状態である。ただ、どういう条件で、蒲郡にくるのかという点が課題でもある。

- ・先程のご意見で、行政はなかなか事業をやめるということは、できないところがあって、やめるという判断も、産業振興会議の役割であろう。
- ・今後、観光の中で市民も巻き込んでいくというような話の中で、集客方法だけでなく、集客によるマイナスの影響とその対策についても検討する必要がある。例えばゴールデンウィークの竹島周辺や 6 月は形原のあじさいの周辺など、近隣の方々の移動範囲が狭められたりして、大変な思いをしている。市民の人たちにも協力を得ていく時には、この呼び込んだ人達と市民の思いというのでも汲んで進めてほしい。
- ・繊維の次世代につなぐ地域産業活性化プロジェクトは、若者という言葉が沢山出てくるが、若者はもちろんいいと思う一方で、ベテランの方たちの今までの経験や知識も沢山あるかと思うため、若者を中心に、広い世代を巻き込んでいって大きなプロジェクトになるといい。
- ・産業振興施策というのは、やはり結果を求めたい。このような施策を有機的に活用してもらうように、どのように一般の方々に伝えていくのかということところが大事である。市だけでなく、各業界も含めてその辺りを今後ともやっていく必要がある。当然金融界としてもできる範囲で、十二分には対応したい。各業界、或いは、市の方でもまた前向きかつ積極的な対応を引き続きお願いしたい。
- ・蒲郡鉄工会では、この 7 月に今回の産業振興会議の内容を情報交流委員会の中で私が報告することになっている。事前にまた、産業政策課の方には詳しく伺いたいことはあるが、今日は簡単に 3 点だけ聞かせていただきたい。まず企業用地の予算は、どれぐらい付いてくるのか。
- ・2 点目は事業承継に関して、M&A という視点で何か取り組んでいることがあるかどうか。
- ・3 点目は企業内起業に向けての予算がどのぐらいついていて、どういう形の人材を紹介していただけるのか、答えられる範囲でお答えいただきたい。

→企業用地の選定調査の予算は、調査費 870 万円を予算計上している。2 番目の事業承継については、月 1 回、事業承継の外部相談員さんに来ていただいてご相談を受けさせていただいている。昨年度から始めたがご好評をいただいております、コンスタントにご予約いただいて、相談を受けさせていただいている。M&A というのも一つの方法として、ご相談を受けることはある。3 番目の企業内起業について、昨年度コンサルタント等の話をご提案いただいたが、現状コンサル調査の補助金については予算化できていない。一方でスタートアップ企業との連携や、STATION Ai との連携というのは重要視しており、県や STATION Ai 株式会社とも連携しながら、本市の施策

のあり方も研究している。

- 地産地消ということで、地元で水揚げされた魚を地元の市民の方に食べていただきたいが、私が調べた限り、平成 10 年ごろ市内に小売屋さんが 10 店舗程あり、肉屋と同じぐらいあったが、今は数店舗となって、まちの魚屋さんがなくなった。理由は食生活の変化もあるが、後継者不足もある。
- 後継者がいないため店を閉め、ほとんど小売業者が減ってなかなか魚を食べていただけないということと、学校給食でも食べていただきたいが、制約があって地元の魚がなかなか使ってもらえない。観光的には沢山使っていただいているが、地元の皆さんに地元の魚を食べていただく様な施策があまりないと思われるため、今後そのような施策があると良い。
- ビジョンの 34 ページに書いてある様なことを蒲郡市農業協同組合が取り組んでいるところもあるため、我々の取り組みをここにどの様に関連づけていくか、考えるところである。連携のところで、我々も企業や観光も含めてということだと思うが、そういった連携の中で、発展的なところが考えられれば良い。
- 蒲郡市観光協会が法人化して、コンセプトが「コネクト」ということで、やはり繋がる、繋げる、連携すると、これをまずしっかりと 1 年目はやっていきたい。具体的な内容は、やるべきことは山の様にあるが、皆さんと一緒に、やれるところからスタートしていきたいという様に思っている。
- 今年度の予算ということであったが、単年度の予算なのかそれとも複数年度の予算なのか、それから 3 年間でやるっていうのもあったと記憶している。またこの予算の中には、毎年続けていくものが色々あると思うが、プロジェクト的なものと単年度や複数年度という期限がついているものだと思う。そういった期間についても資料の中に付いていると分かりやすい。
- 先ほどから連携について意見がある中で、予算としては従来通り課に付けるということであるため、少なくとも産業振興部としては横串を通し、港であったり道路であったり、建設部など他の部とも連携があるといい。蒲郡市としては組織横断的な形で、国という内閣府に付けてというやり方があると思うが、そのような形でこの産業振興のプロジェクトを進め、かつ予算を付けていただくといい。
- 今まで行政は、各担当課で経験や勘、担当者の心意気で予算を付けたりしているところがあったと思う。所属する団体へは予算付けの際に個別の相談はあったが、このような会議で、違う分野の予算や事業内容を聞く機会はなかったなので、今後も引き続きご意見をいただきたい。
- 予算枠の話があったが、令和 5 年度の予算だと主要施策の事業は、ホームページを見ていただくと抜き出して書いてあるが、産業振興部では 8 つの主要新規施策を掲載しており、蒲郡市の全体の事業の中でいうと 3 分の 1 から 4 分の 1 ぐらいは、産業振興部の新規の事業が入っている。そういった意味ではアフターコロナに向けてチャレンジしていく予算、新規事業を出している。
- これまで手がけことができなかった知柄漁港の問題や、企業用地の問題、なかなか着手

できなかったところに新たなチャレンジをしていく。すぐには解決できないかもしれないが、短期的な施策でやっていくべきこととは別に、長期的な施策についても手がけていかないと、将来、市制 100 周年に向けて考えていく使命がある。

- ・産業振興部の中には観光まちづくり課の中にシティセールス推進室がある。こういった施策事業がシティセールスに繋がる部分もあるため、シティセールスをしていくことによってシビックプライドが高まり、市外の人にも発信して蒲郡の魅力を知らせていただくことが移住定住に繋がり、それが新たな産業を生み出したり新たな労働力になるなど、そのようなことにも繋がっていく。産業振興部がこの将来のまちづくりにとって大きな使命があるということ認識しながらこれからも努力していきたい。

4. その他

- ・本日の会議において、お気づきの点やご意見等があれば、産業政策課宛にメール、FAX等でご意見をいただきますと幸いです。次回の第 6 回蒲郡市産業振興会議の開催について、9 月以降の日程での開催を予定しており、会議の開催日時については、改めてご連絡をさせていただきます。